

松本・高山エリアにおける 高付加価値旅行の実態調査

西田 葵

この論文は、近年注目されている高付加価値旅行について旅行者のニーズを満たす滞在価値に焦点を当て、松本・高山を対象として実態を調査することが目的である。現状では高付加価値旅行の推進に関する調査や先行研究は極端に少ない。そこで、松本・高山の高付加価値旅行を実現するためには工夫どんな工夫が必要かという問いを設定し、宿泊施設やサービスの向上よりもその土地ならではの本物且つ特別な体験価値を提供する必要があることを証明することで、高付加価値旅行という新たな観光の推進に貢献していきたい。

近年の富裕旅行者の志向において自分の興味関心を追求するための要素を求める傾向がある新型ラグジュアリー志向の拡大が見られたことから、観光地の高付加価値化は有意義であると読み取れた。松本・高山を訪れる外国人観光客にとって、歴史ある建物や景観、郷土料理、自然というその土地ならではの本物且つ特別な体験は滞在目的や旅行満足度に繋がっている。さらに石川県金沢市と東京都を比較対象とし、上記2箇所にはないものとして松本・高山には本物且つ特別な体験が求められていることを明確化した。ヒアリング調査や現状整理から、松本・高山は本物且つ特別な体験価値に焦点を当て高付加価値旅行を推進しており、特に台湾・タイをターゲットとして展開する予定であると分かった。しかし2国からの観光客は消費単価額が低いことが課題であるとし、消費単価額が高い欧米に向け新たな提案を行った。人気上昇率が高い地域の愛知県、群馬県、愛媛県を選出し、それぞれの高付加価値な取組から松本・高山に活用できる点を述べた。

以上の内容から、松本・高山における高付加価値旅行の実現には、宿泊施設やサービスの向上よりも、その土地ならではの本物且つ特別な体験価値を提供する必要があることが証明でき、実態調査に加え今後の展望を考察するに至った。高付加価値旅行の推進という取組は近年取り掛かり始めたばかりだが躍進的に計画が進んでおり、さらに拡大する未来を期待できるだろう。